

## 第6回国際コンファレンス

# 「世界同時金融危機下のアジア金融セクターの視点」

### セッション I 「プルーデンス規制とアジア地域の銀行のビジネスモデル」

## **Building Strong Banks and Bond Markets in the ASEAN+3 Countries**

アンワール・ナスティオン  
インドネシア大学経済学部  
教授

### 概要

サブプライムローンによる今回の金融危機では、アジア諸国は、それほど、大きな打撃を受けなかった。その理由としては、(i)アジア諸国では国内貯蓄が十分にあること、(ii)銀行システムの流動性が十分に確保されていたこと、(iii)米国のサブプライム関連商品への投資がアジア諸国は少なかったこと、(iv)アジアでは、債券市場・証券化市場が未発達であること、などが挙げられる。さらに、ASEAN+3 諸国は、経常収支の黒字による外貨準備を十分に積んでおり、1997年のアジア通貨危機の時代と比べて、海外からの投機的な資金流出入に対して、頑強性を増してきている。さらに、2国間の通貨スワップやチェンマイ・イニシアティブにより、緊急時には、流動性を供給するメカニズムが整備されてきている。

1997年のアジア通貨危機以来、中央銀行はインフレ目標を政策目標とし、為替政策としては変動相場制を目指し、GDP比率で見た国債依存度の安定化が、ASEAN+3のマクロ政策の目標となっており、今回の金融危機では、為替の大幅な下落もなく、銀行のバランスシートも不良債権を抱えなかった。

ASEAN+3 諸国では、銀行部門が金融システムの中で、大きな比率を占め続けている。銀行は、貸出と、国債・中央銀行発行債券の保有が多く、民間企業の社債市場は依然として未発達であり、アジア経済の成長のためには、グローバルスタンダードな債券市場、効率的な金融市場の育成は不可欠であり、金融検査・監督の質の向上も欠かせない。

Eichengreen(2004)の提案に見られるように、(i)債券市場・証券化市場の育成、(ii)銀行と公的企業との関係、銀行による関連融資を、より市場原理に基づいたものへと改善すること、(iii)1997年のアジア通貨危機の際から問題となっている金融監督の欠如、銀行の過度のリスクテイクを、改善する必要があること、(iv)国際的な金融システムの構築に向けて、共通の基準(Standard)を築き上げることなどが必要である。